

街中にゴミ箱があることの幸せ

加藤浩徳(東京大学大学院工学系研究科)

kato@civil.t.u-tokyo.ac.jp

我が国の公共スペースからゴミ箱が消えてしまってから久しい。これは、9.11 同時テロ以降、公共スペースの管理責任者が、安全対策の一環として行っているためだと理解している。鉄道駅からゴミ箱が消えた当初は、その不便さに大いに困った記憶がある。しかし、ゴミ箱のない生活を続けているうちに、正直、だんだんその環境になれてきていた。そうしたところ、しばらく日本を離れ、スイス・チューリッヒに滞在する機会を得た。スイスに到着し、まず街を見て印象的であったのは、要所、要所にゴミ箱が設置されていることであった。空港や鉄道駅はもちろん、歩道、公共交通車内、バス停など、ほとんどありとあらゆる公共スペースにゴミ箱が設置されている。さらに驚いたのは、犬の糞を廃棄するためのゴミ箱までもが、街中のあちこちに設置されていたことである(写真を参考のこと)。確かに、我が国に比べると犬の散歩をしている人が多いようなので、街(あるいは道路?)の美観維持を考えれば必需品なのかもしれない。

なお、スイスにも、テロに対する脅威がないわけではない。今年(2006年)3月には、SBB(スイス国鉄)の駅に爆弾を仕掛けたという脅迫電話があり、チューリッヒ周辺の鉄道サービスが、約3時間にもわたってストップした。それでも、しばらくは公共スペースからゴミ箱を取り払うつもりはないようである。当然、テロの危険に加えて、ゴミ収集のコストもバカにならないわけだが、そのコストを補って余りある効用があると、現地の人々は考えているようである。ゴミ箱は、人々にとって大変ありがたいパブリックサービスの1つなのである。あるスイス人曰く、「テロ対策は、どこまでやっても限りがない。それよりゴミ箱をたくさん置いた方が、便利だし、第一、気持ちのいい街になると思わないかい。」妙に納得力があると感じるのは、私だけであろうか。



チューリッヒ市内に設置されるペット糞専用ゴミ箱(2005年6月に筆者撮影)